

こころ

県P連だより

発行 徳島市北田宮1丁目8-68
 〒770-0003 ☎088-633-1105
 徳島県P T A連合会
 編集 総務広報委員会

全国学力・学習状況調査の結果から

自分の考えを述べる力・言葉の力 「生きる力」は家庭から

これからの時代を生きるには、しっかりとした「生きる力」、すなわち確かな学力、豊かな人間性、健康・体力、の知・徳・体をバランスよく育てることが大切です。しかし、この「生きる力」は学校だけでは育ちません。家庭・地域そして学校それぞれが子どもたちと向き合い、一緒になって子どもたちの育つ環境を整えることが課題だと考えられます。

○将来、社会に出たときに必要な話す・聞く・読む・書く力をつける

全国学力・学習状況調査の結果をみると、子どもたちの学力向上には、家庭におけるよりよい生活習慣や学習習慣の形成が欠かせません。そこで徳島県「学力・学習状況」改善推進委員会会長の世羅博昭先生(四国大学生生活学部児童学科教授)に「生きる力」についてお話を伺ってきました。



いつも笑顔の世羅博昭先生
(四国大学生生活学部教授)

言われるから勉強するのはではなく、子どもたちが自分の意志で学ぶようにするために、何のために、なぜ学ぶのかを子どもたちに理解させることが、大人の大切な仕事だと思っています。

そのためには、将来、社会に出たときに必要な、会議で司会する力、討議する力、記録をとめる力、情報を収集し整理

理する力などを今の段階で身につけておかなければ困るということ、大人の体験をふまえて、実感的に理解させる必要があります。親の現実の体験を通して語る「学ぶことの意義」は、必ず子どもに響くに違いありません。

○子どもに自信をつける

子どもたちは、目先の「入学試験」のためだけに受身的に勉強するのではなく、今学ぶことが将来どのような役に立つのかを実感できたときには、はじめて本気で勉強しはじめるでしょう。

子どもは自信を持つことで、自ら学び、前向きに生きようとする力を持ちます。満足できる達成感がとても大切です。そのためには、「失敗」を乗り越え、失敗をバネに



学校で人形浄瑠璃を体験する子どもたち
様々な文化活動体験が「学ぶ意欲」につながる

「確かな学力」

基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用して、自ら考え、判断し、表現することにより、さまざまな問題に積極的に対応し、解決する力

「豊かな人間性」

自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性

「健康・体力」

たくましく生きるための健康や体力

かえる経験が必要です。失敗を発見にかえ、それを乗り越えて自信へと導くためには、大人が指図したり、失敗しないように先回りするのはなく、子どもがすること温かく見守り、陰から必要なときには支える愛情を持つことが必要でしょう。

○言葉の力・読書のすすめ

「確かな学力」を養うためには、読解力の向上が課題と考えられています。読書は考える力を伸ばし、自分自身の内面的成長を促します。子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力に身をつけていく上で欠くことのできないものです。

そして、「読む力」は最も基本的な学力のひとつであり、論理的な思考力や豊かな感性を養うとともに、主体的に学ぶ力の基礎、さらには知的活動の基礎を育みます。新しい時代を担う子どもが、読書活動に取り組むことで自らの心を育て、社会に目を開き、未知なる世界への関心を高め、生涯にわたり主体的に生きる力を育むはずで

生活リズムを整え、心の交流を図ろう！

徳島県「学力・学習状況」改善推進委員会 提言より抜粋

1 子どもの生活リズムを整え、脳を活性化させる。

睡眠や栄養が不足すると、脳の働きが低下する。そうすると、子どもの学習意欲も低下し、学力の低下へとつながってしまう。「早寝、早起き、朝ごはん」に代表される生活リズムを定着させることで、子どもの脳が活性化し、学習意欲の向上やよりよい生活習慣の形成がみられるようになる。

- 「早寝、早起き、朝ごはん」を合い言葉に実践する。
- 1日1時間はテレビをつけない時間帯を設け、家庭学習や読書、家族の団らんに使えるようにする。
- 家庭学習時間やテレビゲームをする時間を子どもと相談して決めるなど、最低限のルールを決める。
※テレビゲームを2時間以上する子どもは、感情をコントロールしづらくなり集中力が低下すると言われている。
- 学習時間を確保し、計画を立てて学習できるよう促すなどして、子どもの家庭学習習慣を確立させる。
- 子どもが小さいうちは、声かけだけでなく家庭学習をしている子どもに寄り添う。
- 学校や関係機関等からの広報紙・ホームページに目を通したり、PTA総会や学校での懇談会に出席したりして情報を収集・交換する。

2 子どもと向き合い、心の交流を図る。

学校での出来事を家の人に話す子どもの方が正答率が高いという傾向がある。学校での生活が楽しいから家の人に話したくなる。また、家の人との人間関係が良好であるから話ができる。学校でも家庭でも大人が子どもと向き合う時間を日々、少しでも多くとれるよう努力し、心の交流を図っていくことが大切である。

- まず家の人から挨拶をしたり、声をかけたりする。
- 学校や友達のことなど、子どもの話をじっくりと聞く。
- 子どものよいところを見つけてしっかりと誉め、子どもに自信を持たせ自尊感情を高める。
- 将来のことや社会に出たときの経験などを子どもに話し、将来の夢を持たせる。
- 学校や地域の図書館の本を借りてきて子どもとともに読書をしたり、本をとおして話し合ったりする時間をとる。
- 家族の一員としての役割(手伝い)を発達段階にあわせてさせる。
- 子どもとともに山や海での自然体験を積んだり、地域の行事、ボランティア活動などに参加したりする。

学校と家庭、地域の連携

○徳島県教育委員会では徳島県「学力・学習状況」改善推進委員会を設け、小中学校を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」及び「徳島県学力調査」結果をもとに、学力の向上を図るための学校・家庭・地域における教育活動や生活習慣等の改善支援策について検討が重ねられました。

その中でも特に、子どもたちに「確かな学力」を身につけるためには、学校と家庭、地域の連携を密接に図ることの大切さが大きな課題として挙げられました。私たち保護者が学校や地域との連携を大切にすためには、PTA活動を通じて、個々の家庭の教育環境を整える一方で、保護者

同士の交流や連携にも力を注ぎ、全ての子どもをみんで育てていく環境づくりが必要です。そのためには、地域を挙げて、わが子だけに目を向けるのではなく、子どもたちを見守り、地域とともに「生きる姿」を見せてこそ、たくましい子どもが育つのではないでしょう。

徳島県「学力・学習状況」改善推進委員会

世羅博昭会長にお訊きしました

Q. 学力調査の結果をみると、家庭の環境が学力に大きく影響することが現れています。共働きの家庭も多くなり、子どもと向き合う時間もとれません。そんな中、子どもたちに学ぶ力をつけるためにはどうすればよいのでしょうか。

A. すべての学力の土台は言語能力と言われています。子どもが誕生した後、親や家族がどれだけ愛情をもって子どもに言葉かけや言葉のやりとりをしたかによって、子どもの言葉の発達には違いが生まれます。学齢期になっても、それは同じことです。

うに子どもを仕向けたり、叱ったり、けなしたりするのはなく、できるだけ認め、褒めるように心がけましょう。褒めて伸ばす、これが子どもに自信をもたせる最善の方法です。

ただ勉強をさせられるのではなく、子どもたちが自信を持って、自ら学ぼうとする気持ちが生まれて初めて、「学ぶ」環境が家庭で築かれるのです。親も点数にこだわるのではなく、そのつまずき、つまずきの傾向と内容にこそ目を向けるべきです。そうしてこそ、



地域の行事で生き生きと活動する子どもたち

子どもの学力は真に伸びるものです。

また、親が自分の体験や生きてきた歴史を語ったうえで、親の子どもに託す願いを子どもに語りかけたら、親の思いや願いを心から受けとめてくれるに違いありません。

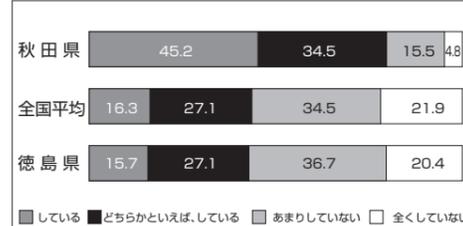
「全国学力・学習状況調査」及び「徳島県学力調査」はどのように実施されたのですか？

全国学力・学習状況調査は平成十九年より、小学校六年生と中学校三年生を対象に、徳島県学力調査は平成十八年より小学校五年生、中学校二年生を対象に実施され、公立小中学校全校参加しました。教科に関する調査では国語と算数(数学)で、A・知識に関する問題、B・活用に関する問題、そして生活習慣・学習習慣等に関する質問紙調査が行われました。

◆徳島県の結果は？

小学校の「知識」に関する問題については、国語・算数とも全国平均を上回りました。一部課題が見られた問題もありました。「活用」に関する問題については、国語・算数とも昨年度に比べると、全国平均との

◇家で学校の授業の復習をしている児童の割合(小学校)



グラフで示すように、学力の定着状況が良好な秋田県の小中学生は、授業の予習・復習もきちんとしています。やはり家庭での学習習慣はとても大切だとこの調査からもわかります。

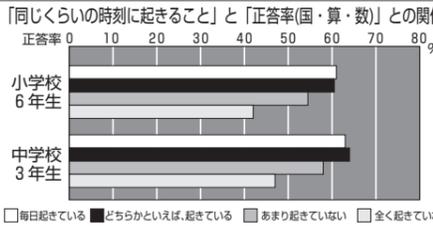
◆保護者としては…

子どもの生活リズムは家庭から整える

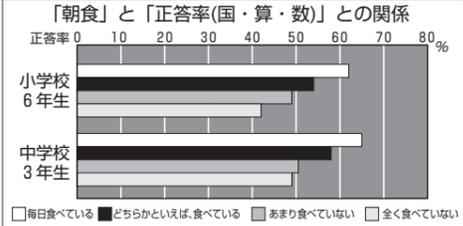
■平成20年度全国学力・学習状況調査において、学力との相関関係が見られた子どもたちの意識や生活習慣等に関する調査項目を取り上げ、学力向上の観点からめざしたい子どもの姿を表してみました。このような具体的な子どもの姿を関係者が共有して指導することで、徳島の子どもの学力向上及び生活習慣、学習習慣の改善を図ることができるようではないでしょうか。

基本は「早寝早起き朝ごはん」健全な生活リズムは健全なからだと脳の活性化に必要な栄養です。すべてはここから始まります。

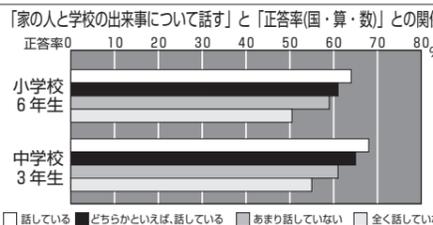
◇毎朝、起きる時間を決めて早めに起きる



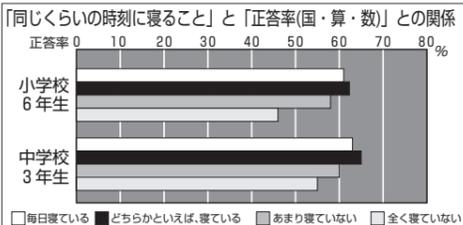
◇毎朝、朝食をしっかりと食べる



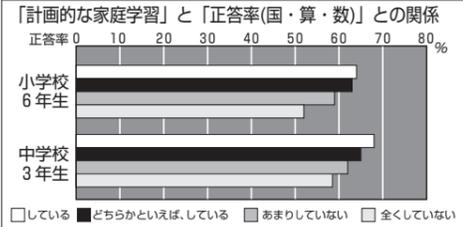
◇学校での出来事を家の人に話す



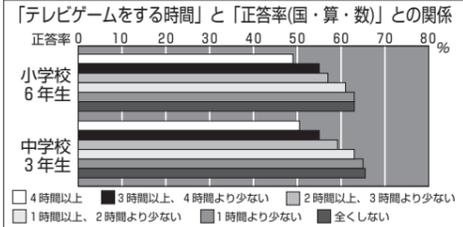
◇毎晩、寝る時刻を決めて早めに寝る



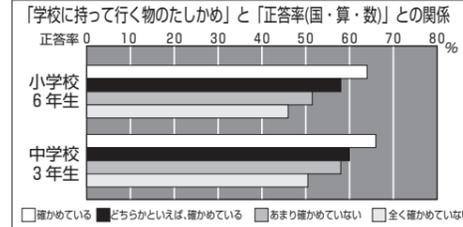
◇自分で計画を立てて勉強する



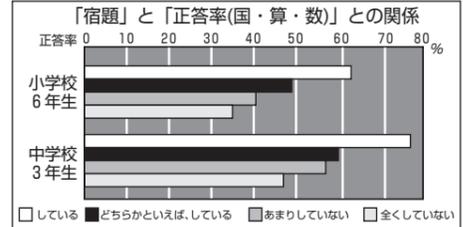
◇テレビゲームは時間を決めてする



◇前日とその日の前に、学校に持って行く物の確かめをする



◇家に帰ったらすぐ宿題をする。



それぞれのグラフは、平成20年度全国学力・学習状況調査における、本県の子どもの意識や生活習慣等と教科の正答率との関係を表したものとなっています。グラフ中の正答率は、国語の知識・活用、算数・数学の知識・活用の正答率を平均して算出しています。

本に親しむ

◆徳島県教育委員会では、子どもの自主的な読書活動を推進するために、「徳島県子ども読書活動推進計画」を策定しました。すべての子どもが豊かな心をはぐくみ、生涯にわたり自ら学ぶことのできる力を養うため、子どもが自主的に読書活動に取りくむことのできる環境を整備することを目指します。

委員会では、絵本作家による「お話し会」、読書ボランティアによる子どもの読書フェスティバル、「読書ボランティアリーダー養成事業」、「青少年のためのオーサー・ビジット事業」

などを実施し、中学校・高校へ作家等を派遣することによって、子どもの読書活動の推進を図っています。

では、一番身近にいる私たち保護者は、どのように子どもたちと読書を楽しめばよいのでしょうか。

●具体的に・・・
 (徳島県子どもの読書活動推進協議会)

○家庭においては子どもと一緒に読書を楽しみましょう。家族ぐるみの生活化！

○「ノーテレビデー」をつくり、家族で本を読みましよう。

○休日には家族で近くの図書館に行きましょう。

しかし、今まであまり読書に親しんでいない家庭では、どこから手をつければよいのか戸惑うことでしよう。

世羅先生にアドバイスを頂きました。

まず、学校の国語の授業で今どのような物語を習っているのか聞いてみてはいかがでしょう。小学生ならば、毎日音読を聞くだけでも本に親しむ心が親子で生まれるはずです。中学生以上では、お互いに本を交換したり、今読んでいる本について話す時間をほんの少し持つだけで、読書が面白くなり会話も弾むでしょう。また、毎日、新聞を一緒に読んで、感想を話す等のことでも構わないでしょう、少しずつ始めてみましょう。

人権・家庭教育委員会研修会 防災センターを見学して

中川 治子

12月11日、私達は板野郡北高町の防災センターに見学に行き、地震や災害に対しての心構えや、対処について勉強しました。

近い将来起こると言われている南海大地震。言われ続けて危機に対して鈍感になっていませんか？地震やその後の二次災害についての恐ろしさを改めて知り、私の気持ちに喝を入れてくれました。

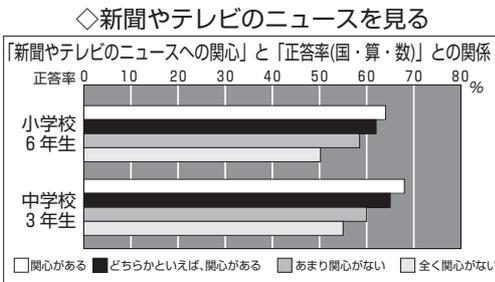
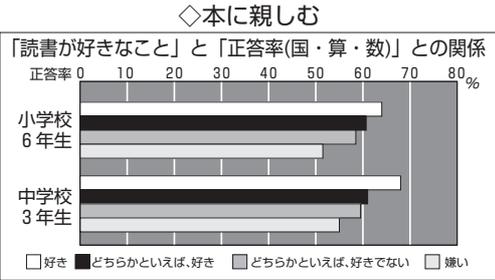
救急救命の講習会では、短い時間ではありましたが、ユーモアと厳しさをまぜながら、実習を行って下さいました。

当日、参加された方の中で三時間の講習を受けて終了証を持っていたのは私一人でした。

人間の一生のうち、人命救助の場面に遭遇する事は



防災センターで消火器訓練をする



PTA創立60周年記念式典

平成20年9月16日 徳島県郷土文化会館

今年度、徳島県PTA連合会は60周年を迎えるにあたり、創立60周年記念式典を開催すると同時に、PTAの組織、運営、また家庭や地域との連携など望ましいあり方について研修をおこないました。県内の幼小・中・高・特別支援学校

のPTA代表八〇〇名が集いました。記念講演として徳島大学学長補佐・総合科学部人間社会学科教授 佐野勝徳氏を迎え、「学力向上に向けた生活習慣や学習習慣の改善をめざして」を講演していただきました。その後、パネルディスカッションをおこない、熱い意見が交わされました。



記念式典開会の言葉
川原富子県PTA連合会会長

シヨンをおこない、熱い意見が交わされました。

一度も無いかもしれせん。しかし、もしもの時、何も出来ずに大事な家族や周りの大切な人達を失いたくはありません。

毎日の生活に追われ、地震や災害などの対策に気がまわらない時があります。だからこそ今、家族を守るために普段から色々と考えなければならぬと思いをしました。

平成20年度県PTA連合会事業(抜粋)

- 6月10日 県P連総会
- 7月24日 耐震化陳情(知事・議長・教育長)
- 8月23日・24日 日P全国研究大会(かがわ讃岐路大会)
- 9月16日 創立60周年記念式典・県PTA振興大会県会長指導者研修会
- 10月20日 県教育委員会教育長陳情
- 11月20日 日P60周年記念式典
- 12月11日 人権・家庭教育委員会研修会(防災)
- 1月31日 とくしま家庭教育フォーラム